



ゲスト多彩なキントキ五目 下船後のお楽しみも満載!

昔ながらのシンプルな胴つき3〜4本バリの仕掛けにコマセは使用せず、サバの切り身や塩イワシをエサに狙うキントキ五目は、呼称のとおりキントキを筆頭にカサゴ、メバル、ヒラメ、ハタなどの底物からイナダ、ワラサ、ヒラ

マサなどの青物まで多彩に釣れるのが魅力。
外房大原港の敷嶋丸へ釣行したのは5月下旬の週末。リクエストさえあれば周年キントキを主体とした根魚五目を受け付けてくれる。
敷嶋丸は常時2隻体制で釣



▲キントキはほどよく脂が乗って食味も満点



▲カサゴの仲間もよく釣れる

り客を迎えている船宿。当日は1号船がイサキ、2号船が根魚五目での配船。
五日船には私を含む8名が乗船。御年80歳の山本元次郎船長の舵取りで早朝4時15分に出船となった。
南西方向に航行することおよそ45分、御宿沖でエンジンがスローになる。
「エサを付けて準備してください。サバの切り身は青いほう(背身側)に付けるんですよ」とアナウンス。
ここでこの釣りのタックルや仕掛け、釣り方について簡単に説明しておく。
仕掛けは図のとおり胴つきスタイル。3本バリが基本で、船宿推奨のハリは角セイゴ17号。一般の釣具店で購入するの

は難しいので、自作するなら丸セイゴ17号で問題ない。
オモリは80号が基本だが、沖の深場や潮が速いときは120号を使うこともあるので、両方を用意しておきたい。
竿は操作性のよい全長2メートル前後のゲームロッドのほか、ヒラメ竿や青物用など80号オモリをバランスよく背負えるものであれば自分好みの竿でOK。
釣り場の水深は40〜60メートル前後が中心なので、リールは小型電動が便利。
仕掛けの幹糸が6〜7号という太さを考慮すると道糸はPE2〜3号がベスト。それに道糸からロストする確率が高くなる。
開始早々多彩なゲストが

開始早々多彩なゲストが

船宿支給のエサは幅1.5センチ、長さ5〜7センチのサバの切り身。背身側の端部中心にチョン掛けでOKだ。
投入時に指示ダナのアナウンスがなければ1メートルほど底を切ってアタリを待つのが基本。
とくに誘いなどは必要ないが、起伏のある根周りを流すので、根掛かりしないようこまめに底ダチを取り直すこと

が大事。
またキントキは宙層に反応が出ることも多い。そんなときは船長から「海面から〇メートル」とアナウンスが出るので、道糸のマークでしっかりと指示ダナに合わせることにキントキのアタリはキューンッと一気に竿を絞り込んだり、ガンガン激しくたたいて

知得! Tips and Tricks 特エサはカタクチイワシ

船宿で用意されるエサはサバの切り身だが、ヒラメやマハタ、ワラサ、ヒラメサなどのヒットを狙うなら特エサとして10〜12センチのカタクチイワシを使うと確率がグッと高くなる。ただし、イワシエサは持ちが悪いことが欠点。また曲がっているエサは海中で回転し、枝スにヨレが生じるので扱いに気を付けたいとかがえって釣果を下げってしまうこともある。一発に賭けるか、着実に稼ぐか、楽しみ方はあなた次第だ。▲イワシエサは持参



り、かと思えば竿が水平になるほど食い上げたりと千差万別だが、胴つき仕掛けということもあり、アタリは派手過ぎるほど明確に出る。そこがビギナーでも楽しめる理由の一つだ。
群れている魚なのでアタリがきてもすぐには巻き上げず、追い食いを待つて多点掛けを狙うことが釣果をのばすポイントだ。
しばし魚探リサーチを行ったところで、

着底ほどなくして船中あらこちらの竿にガクガクと派手なアタリが到来し、早くも電動リールの巻き上げ音が響き渡る。
見えてきたのは赤い魚影。といっても本命キントキではなく30〜35センチのアカイサキ。釣り人の評価は低い魚だが、クセがない身なので色いろな料理を楽しむことができ。私も大事にクーラーにキープした。

に強い引き込み。大型マハタか青物か!? 一進一退のヤリトリの末に見えてきたのはグレイの魚影。3キロ超サイズのメダイがタモに収まり拍手喝采。
左舷大ドモの紅一点、池田さんは同行のお父さんを尻目にカサゴを連発。カサゴ部門では9尾と船中ダントツ釣果。カサゴクイーンと呼ばせていただいた。

底ダチを取り直しているとかガクガクと派手なアタリ。アカイサキ? と思っっていたらフワフワッと食い上げる引きに変わった。
オッ、もしかして巻き上げにかかると、おとなしく上がってくるかと思いきや、ギョングユンッと突然の強烈な引き。手にしていた竿を落とすそうになってしまった。
キターツ! 黒味がかつた赤い魚影。30センチサイズの本命キントキが海面に浮上。



▲この日のキントキは30センチ級がアベレージ

「いいよお、水深は65メートルだよ」と釣り開始のアナウンス。
「マハタが上がったよ!」
釣り上げたのは左舷ミヨシの下入佐さんと右舷ミヨシの柏さん。キ口弱クラスの小型だが、裏本命の登場に周囲から羨望の眼差しが注がれる。
右舷2番の大志万さんの竿

コッコツとついでにむようなアタリでヒットしたのはウマヅラハギ。35センチオーバーのグッドサイズなので空揚げでいただく。
「マハタが上がったよ!」
釣り上げたのは左舷ミヨシの下入佐さんと右舷ミヨシの柏さん。キ口弱クラスの小型だが、裏本命の登場に周囲から羨望の眼差しが注がれる。
右舷2番の大志万さんの竿

ようやく本命が登場

しかし本命キントキからのシグナルはまだナッシングのまま、少し岩船沖寄りに移動した60メートルラチ。

さっそく写真を撮らせていただくが、全身のヒレをパンツと張った艶やかな赤い魚体は、映える。という言葉がびつたり当てはまる風貌だ。
キントキの時合はこの一瞬だけだったが、その後も釣れてうれしい魚たちからのアタリは途絶えることなく11時の沖揚がり

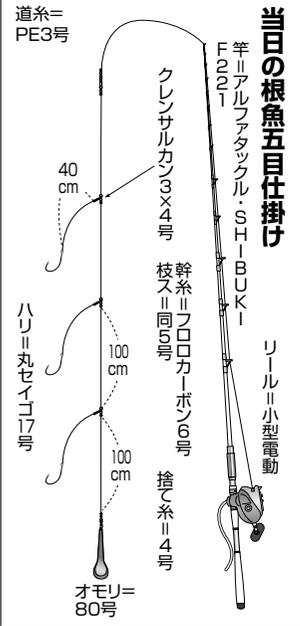
キントキは夏〜秋ごろがベストシーズン。これからは青物も多く交じるようになり、楽しさも倍増してくる。
魚種豊富で釣り本来の楽しさが味わえるキントキ五目。ビギナーの方にもおすすめです。



山本 元次郎船長

料金=根魚五目乗合一人1万500円(エサ、水付き)
備考=集合時間は予約時に確認。
イサキ、一つテンヤマダイ、午後船も受付

船宿information



当日の根魚五目仕掛け

キントキはハリを飲み込んでしまうことが多い。加えてゴツゴツした体表に擦れたりしてハリスが傷みやすい。あらかじめハリスを結んでおくことで仕掛けの消耗が抑えられる。

▼マハタが船中3尾上がった



絶えることなく11時の沖揚がり

船宿information

外房大原港
敷嶋丸
☎0470-62-1800
(詳細は巻末の情報欄参照)

料金=根魚五目乗合一人1万500円(エサ、水付き)
備考=集合時間は予約時に確認。
イサキ、一つテンヤマダイ、午後船も受付



●しいな よしのり / 撮影者本人の写真が載っていると「だれが撮ったの?」と聞かれるけど、私の場合はセルフタイマーやリモコンシャッターで自撮りしております。